



## 歩けない人の第一歩を助ける靴で 家族みんなに笑顔を

有限会社フェアベリッシュ 代表取締役社長 伊藤 弘美

介護していた祖母の「外に出たい」という思いをかなえたい。その一心で、歩けない人のための靴をつくる。伊藤さんの愛情溢れる話の中に、鋼のような芯の強さを感じた。

### 創業のきっかけは

他界した祖母の靴をつくりたかった。祖母は入院中、足に合わない靴を履いて転倒、そのまま寝たきりになりました。履きやすい靴を用意する配慮が家族になく、また実際、売ってなかつたのです。その後、「外に出たい」という小さな願いもかなえることができず、祖母は亡くなりました。悔やまれて悔やまれて、一時期無気力になりました。

そんなとき、夢を見たんです。祖母は、私がかつて履いていた靴を履いて青空の下笑っていました。

この靴を墓前に届けよう。すぐにデザイン画を書き始めました。

### どのような靴なんですか

甲の部分がファスナーになっていて、そこが前面にパカッと開き、足を乗せるだけで簡単に靴が履けます。甲の部分が邪魔で履きにくいということはありません。

「おばあちゃんのためだけではなかつたのですね」

当初から、「足の不自由なすべての方のための靴をつくる」という考えがありました。

入院中初めて起き上がって、自力でトイレに行く靴やリハビリに取り



組む人が歩き始めるための靴は、スリッパやサンダルでは危険なんです。また、長く歩いていない人は、足がむくんでいて普通の靴では履きにくい。無理に履くと祖母のように転倒することも非常に多い。

試作品を手に、病院や障害者施設を回っていたとき、多くの人が必要としていることを痛感しました。

「アイデアをメーカーに売ることもできたのでは」

自分でつくる以外は考えもしませんでした。足が動かないと思っていた人の第一歩は、メンタル面でも非常に重要です。その喜び、笑顔が介護者の気持ちの活力、明るさにもなります。そのため、靴の機能、履き心地、色、すべてで自分で実感したかったのです。

また、市場に出すことには責任が伴います。私の靴を履いて方が一事故が起きたら……人ひとりが背負える責任は、多分ひとり分も無いと思います。会社としてつくる製品は個人と違って、品質、安全などの保障、できることの可能性も随分変わってきます。親が自営業だったので、とりわけ強く意識したのかもしれない。

「製品化には苦勞なさいましたね」  
今でこそ、製品があるので理解して

もらえますが、当時、デザイン画で説明に行っても、どの工場からも相手にしてもらえませんでした。アイデア自体、ありそうでなかつた発想だし、技術的にもファスナーを曲面に使用することは難しい。そもそも「歩けない人のために靴が必要」との概念がありませんでした。

意を決して大手靴メーカーに持ちかけたところ、一人の若手社員の方が共感してくださり、幹部を説得、開発の運びとなりました。

### 今後の抱負は

弊社の商品の販売を通じて、家族の笑顔を広げたいですね。そもそも、「介護」という言葉に抵抗があるようです。車椅子も食事も家族の営みの延長です。「介護」と言った途端、お互い重荷になる。相談窓口をさらに充実させて、もっと多くの方に靴を届け、「家族」の負担を少しでも和らげたいと思っています。

有限会社フェアベリッシュ  
平成14年創業  
靴・介護用品などの製造・販売  
<http://www.fairberish.co.jp/>

青空ねっと  
12年間の介護経験をもとに伊藤社長が実際に使って選んだ商品を紹介  
<http://www.aozoranet.jp/>